

馬をパートナーとして

現在私は「動物介在療法学研究室」に属し、「治療的乗馬 (Therapeutic Riding)」という馬の特性を活かした、障害のある人々への教育および心理的対応、医療、スポーツ・レクリエーションという領域を扱っている。

私たちは、電車の中でやっと歩き始めてばかりの赤ちゃんとお母さんを見かけ、とても穏やかな気持ちになりここにこしてしまいう経験をもっている。馬と出会うということはこれととても似た場面を作る。馬を見ているとついにここにこし、触れなくなってくるから不思議だ。そのとき、心からも身体からも気持ちよく力が抜けている。馬という動物をパートナーに、障害の有無や年齢差、性差、ことばの違いなどをこえて人の心と身体を開き人と人とをつなぐ出会いの場面ができれば素敵だと考えている。

また、子どもを肩車した経験をもつ人も多いだろう。肩に乗った子どもの不安は身体の緊張を通じて伝わってくる。やがて徐々に緊張が解けてくると、会話がなくても子どもがどちらに歩いてほしいか、停まってほしいかが身体の動きを通じて即時に分かってくる。身体を預けるということは、心を預けることだ。気持ちよく馬に乗るといことは、実はそういうことである。運動機能障害のある人たちや自閉症の人たちの身体に触れてみると、心理的なものと病的なものからなる恒常的な緊張のあることがわかる。馬のもつ人に対する親和性と騎乗にともなう運動によって、これらの人々の心と身体が開かれたとき、通常では見られない様々な表出が発現する。これらのことから、馬を通じて障害のある人々が身体の動きを「様式化」に向けて構成する学習機会を提供することができないかと考えている。

ほん

沖永良部島100の素顔 もうひとつのガイドブック 沖永良部島100の素顔編集委員会編



奄美諸島の沖永良部島は、鹿児島県に属し、面積は伊豆大島よりやや大きい。2003年から島の固有生物資源の研究や農業実習で、東京農大の研究者や学生が訪れるようになった。

本書は、島の人々との交流のなかで生まれた。編集・執筆には東京農大

国際食料情報学部のスタッフと島の知名町、和泊町の職員らが協力した。隆起サンゴ礁やソテツ、ガジュマルなどの豊かな自然、マンゴーや美しい花々の栽培、さらに島の歴史、民俗、文化などについて、101項目のエッセイと写真で構成されている。

正確な知見に裏打ちされて、一般の観光ガイドとはひと味違う「もうひとつのガイドブック」と称する所以である。ぜひお越しをと、島の人々は願っている。

(東京農大出版会 2,100円)

途上国における農業普及と その評価 鈴木 俊 著



途上国における農業・農村開発の目的は、農業生産力の向上を図ることだけでなく、そこに住む人々の生活の質的改善、福祉の増大、さらには生きがいの追求、生きる喜びの実現などにある。

ベトナムやネパール、タイなどの現場で長年、農業開発のあり方を研究してきた著者の、それが切実な思いだ。農業技術普及、農村生活改善支援に際しても、それぞれの国・地域の実情に即した農業普及システムの構築が求められる。さらに、これらのシステムを正確かつ客観的に評価する手段を確立する必要性を唱えている。

本書は、各途上国で行われている農業普及システムについて、実態、課題を報告した上で、独自の評価法を提案している。その試みが途上国の農業普及の効率化につながることを期待したい。著者は、東京農大国際食料情報学部教授。

(東京農大出版会 1,680円)